



三条北ロータリークラブ週報

2017-2018年度

国際ロータリー会長：イアンH. S. ライズリー「ロータリー：変化をもたらす」

第2560地区ガバナー：新保 清久「クラブと地区の変革をめざそう」

－MakingADifference in Club and Our District－

三条北ロータリークラブテーマ

「ロータリーの魅力を再確認し、ともに変化をもたらそう」

会長：洪谷 義徳

幹事：石黒 隆夫

SAA：松山 浩仁

例会日：火曜日12:30～13:30

例会場：三条ロイヤルホテル TEL34-8111

事務局：三条市本町3-5-25三条ロイヤルホテル内

TEL:0256-35-7160 FAX:0256-35-7488

HP: <http://www.sanjo-nrc.org>

AD: north@sanjo-nrc.org



例会日 2017. 10. 5

累計No.1472 当年No.13

本日の行事：「市内4RC合同例会」

◆本日の出席：65名中36名(内記帳8名)

◆先々週の出席率：65名中58名89.23%
(前年同期83.33%)

◆本日の講師：作家/(株)エムエス研修企画
取締役 洪井 真帆 様

◆先週のメイクアップ(敬称略)

9月27日地区大会記念ゴルフ大会

今井克義、岡田大介、佐藤義英
森 宏、斎藤良行、早川龍雄
坂内康男、坂本勝司、外山晴一
松山浩仁、丸山 勝、石丸 進
樋口 勤

28日三条RAC 洪谷義徳

28日燕RC 樋口 勤、岡田 健
洪谷義徳、加藤 實、石川友意

29日指名委員会 17名

10月2日三条南RC 落合益夫、山崎 勲
高橋彰雄、田中耕太郎、樋口 勤

4日三条RC 山崎 勲、中條耕二
石川勝行

5日三条東RC 佐藤啓策

石川友意、岡田 健、外山晴一

◆3日記帳受付(敬称略)

三条RC 阿部吉弘、山田富義、石橋育於
菊池 涉、五十嵐晋三、丸山行彦
熊倉昌平、中村和彦、伊藤寛一
小越憲泰、斎藤弘文、加藤紋次郎

三条南RC 齋藤嘉一、渡辺俊明

会長挨拶：本多秀子三条東RC会長



みなさん本日はお忙しい所お集まりいただきありがとうございます。

市内ロータリークラブ合同例会を開催するに当たり何をしようかなと考えた時、本日講師であります洪井真帆先生が一番最初に頭に浮かびまし

てオファーし来ていただけることになりました。今日の演題である「戦国武将たちの懐事情」ということで、みなさんそれぞれ企業を営んだり、地域の為に尽力されている方々の集まりですので時代は違いますが現代の武将であります。今日、話を聞いたことが今後の活躍の為になるのではないかと感じております。

これから講師紹介がございしますが、私は先生の書かれた「ザ・ロスチャイルド」を読ませていただきました。19世紀のヨーロッパの戦争を交えた経済について書かれた本です。それぞれ経済人として生きる人間とナポレオンが同じ時代に戦った話で、この本にもっと若い時に出会っていたなら私の人生感も変わったのではないかいなと感じました。

みなさん今日は限られた時間ではありますが、先生の話をたっぷり聞いて頂いて今後の一助にしていれば幸いです。今日は楽しみましょう。



本日の行事：「三条市内4RC合同例会」 担当：三条東RC

会場：ジオワールドVIP 12:30 開会点鐘 合計出席会員数：120名



講師：渋井真帆様 作家/(株)エムエス研修企画 取締役

プロフィール:1994年立教大学経済学部経済学科卒業。都市銀行、専業主婦、百貨店販売、証券会社などを経て2000年、28歳のときに独立。現在まで(株)エムエス研修企画 取締役として企業向けの人材教育、販売コンサルティングの受託のほか、TV、雑誌でも活躍。2012年の40才の節目に半年間のカナダ、ヨーロッパでの生活を経験し、公私ともにパワーアップ。2012年11月に処女小説『ザ・ロスチャイルド』で「第4回 城山三郎経済小説大賞」を受賞。2013年、同作品で小説作家としてデビュー。その他ビジネス書の著書多数。

本日はこのような場でお話しさせて頂く機会を頂戴し、私の拙い著作の紹介までして頂き本当にありがとうございます。

私は西洋史、日本史共に歴史が好きで、高じて作家になりました。今、次回作、幕末の日本を書いていて、三条に関係がある部分を書こうか悩んでいたのですが、今日背中を押されまして、刀鍛冶から包丁、ナイフ製造に到る処を書こうかなと思いました。1年以内には書き上がると思います。戦国武将は兵や鉄砲など武器を調達するにも多額の費用がかかる。シンプルに言えば多額の銭がなければ戦ができない。これが戦国武将達が直面した現実です。

皆さんが商売をされるときも、良いアイデアがある、志がある、ああしたい、こうしたい、と言っても結局キャッシュが無いと形にならない現実があります。

戦国武将にとって、経済力の増大は戦に勝つためには極めて重要な課題でした。

私は銀行員時代、法人融資を担当しました。そのせいか、気になります、懐事情の実態が。

目の前の人には気にならないのですが、歴史上の人物の事がどうしても気になります。融資の気になり方なんです。資金使途は何なのか。返済原資は何なのか。

戦国武将の場合は返済原資はばらばらです。どうやって儲けているのか。

資金調達が一番上手かったのは織田信長です。今日は皆さんに縁のある上杉謙信、武田信玄をピックアップしてお話しさせて頂きます。

『戦国武将たちの懐事情』

- ◇ 戦国武将たちはどのようにして軍資金をこしらえたのか？
兵を動員するにも、鉄砲などの武器を調達するにも、多額の費用がかかる
- ◇ 上杉謙信の懐事情
柏崎と直江津
年間4万貫文にもものぼった関税収入
『廻船式目(かいせんしきもく)』の三津七湊
堺、伊勢安濃津(桑名)、筑前博多津、越前三国湊、加賀本吉湊、能登輪島湊、越中岩瀬湊、越後今町湊(直江津)、出羽土崎湊、津軽十三湊
- ◇ 青苧座役(あおそざやく)の収入
同業者組合である「座」
座の本所(支配者)は天皇家や公家、神社、寺
座は金銭(座役)を本所へ上納し、仕入れ・販売の独占権などの保護を受ける
謙信、蔵田五郎左衛門ら⇒青苧座の旧来の利害関係に切り込み、青苧座役の徴収強化
- ◇ 戦国大名の税制
年貢と公事を基盤とする
公事⇒銭貨を徴収する「役銭」と労働力を徴発する「夫役」

<役銭>

段(反)銭(田の貫高によって賦課)、懸(かけ)銭(せん)(畠の貫高によって賦課)、棟(むね)別(べつ)銭(せん)(固定資産税)、地子銭(宅地税、都市)、蔵役(高利貸から徴収する税、営業税)、市場銭(市場の売り上げや販売権と引き換えに、座衆から徴収する税)など多種多様な雑公事(まんぞうくじ)と呼ばれた

<夫役(ぶやく)>

普請役、陣夫役、伝馬役、船役など

☆ 武田信玄の懐事情

年貢ではなく、棟別役(むねべつやく)を税収の柱に置く

逃亡しても追いかけて徴収する、連帯責任制によって郷村全体で負担させる(甲州法度之次第第三十二条から三十五条)

関所を設け、関銭を徴収

軽犯罪者に課していた過料銭を領民全体にかける

☆ 戦国・経済クイズ (回答)

室町幕府が発令した洛中利平の定書より、

- 1) 下記の質草グループ①②は利平がそれぞれ5%または6%です。どちらが5%で、どちらが6%でしょうか。

①絹布、書籍、楽器、家具など⇒5%

②茶碗、香合、香炉、金物、武具、米穀など⇒6%

- 2) 預かり契約の期限

下記①②③の質草の預かり契約の期限は、7か月、20か月、24か月のうち、それぞれ何か月でしょうか。

①武具⇒24か月

②米穀⇒7か月

③それ以外(絹布、楽器、家具、茶碗、金物など)⇒20ヶ月

- 3) 比叡山系土倉の利息：年利48~70%



ありがとうございました。



次年度当番クラブ挨拶
三条RC小出子恵出会長



私は、いまから7年前に地区の米山奨学委員長として東京で米山記念奨学会の研修を受けた際に米山梅吉氏が取り組んだ数々の慈善事業について教わりました。

そして翌年に米山奨学委員有志で静岡県長泉町の米山梅吉記念館を訪問して、あらためて米山梅吉が清廉の士であることを知りました。

米山記念奨学事業の意義や功績については、ロータリアンにとっては、十分ご理解していただいているものとして、この月信では、米山梅吉翁について述べさせていただきます。

略歴

明治元年 2 月 4 日 武士の和田竹造の 3 男として東京芝田村町に生誕

父竹造の死後母の実家の三島に移る。

明治 16 年 (中学 3 年生) に政治家や文筆業、新聞記者を目指して東京へ (家出同然)

明治 21 年渡米 苦学の末 8 年かかり大学を卒業

明治 28 年帰国 明治 29 年米山春子さんと結婚

明治 30 年 30 歳で三井銀行に入行

大正 9 年 (53 歳) 日本最初のロータリークラブを創設して会長に就任

大正 13 年に三井信託銀行を創立昭和 9 年まで社長

昭和 6 年長泉小学校建物と約 1 千冊の本を寄付・・「米山文庫」と呼ばれる。

昭和 9 年三井各家が当時のお金で 3 千万円 (今のお金で 100 億円以上) を寄付して、社会事業や文化事業に役立つための会、三井報恩会を作り理事長になる。

昭和 12 年財産をなげうって緑岡小学校を設立。校長となる。戦後青山学院初等部となる。

昭和 13 年貴族院議員に勅選される

活動内容の一端

昭和 9 年以降三井報恩会の仕事に専念する。

昭和 15 年から 17 年にかけて、青森から沖縄まで数ヶ所のらい病で入院している人々を 1 人 1 人にお土産を持って慰問。全国にベッドを 3 千増やす。

がんの治療に必要なラジウムが足りないと聞き、ベルギーからその頃のお金で 100 万円を出して購入して癌の研究を助ける。

国民病とも言われていた結核療養所や結核を治す薬の研究所をつくる。

各地に済世会病院を増やし、精神病院を作り、病気の予防や治療、その研究を助けた。

国民健康保険制度の実施に協力した。

三井報恩会は貧しかった東北の農村が発展するように多くのお金を出して助けた。

例えば、東北地方の実情を見て回り、我が国の羊毛の資源を増やすためにニュージーランドから羊を 5 千頭以上輸入して、農村を助け、良い品質のものを作り出すために力を尽くした。

その他、学問の研究や実験のためにお金を出して協力、援助したものは、数えきれないそうです。

梅吉氏の三男は、次のように述べています。「父は若いころにアメリカで苦学して、アメリカの教育の『いかに他人を楽しませるか』ということをも身につけて帰ってきました。そうした父は、普段から『他人の楽しむのを見ているほど幸せなことではない』という人生の考え方を持っていました。だから奉仕の精神に支えられていたロータリークラブの活動に心惹かれて、ロータリークラブを日本に紹介したのも決して偶然ではありません。おそらく父が、自分の財産を投げ出して青山学院に緑岡小学校と緑岡幼稚園を作ったのは、こうした考え方を幼いころから教えられた日本人を作り、よりよい明るい民主社会にしようとしたからでしょう。

父が他人につとめるときは、文字通り真心込めてしたので、自分でも楽しかったのです。

だから父はそうすることによって報酬を求めるような気持ちは少しもありませんでした。父は心からお互いに幸せであることだけを願っていました。(米山梅吉翁物語より抜粋)

米山梅吉の生き様、偉業に対し、まさに尊敬と感動しか言葉がありません。

米山記念奨学事業は、1952年にスタートして1967年に「財団法人ロータリー米山記念奨学会」が設立されて今年で50年が経過しました。

2万人を超える奨学生を支援して来ましたが、これからも世界中で着実に国際理解が進んでいくものと期待しています。